

# Guide to MOA Museum of Art

写真：国宝「紅白梅図屏風」 尾形光琳 【毎年2月頃展示】

## Entrance エントランス [アートストリート]



**A エスカレーター**  
エスカレーター入口から約200mの通路を7基のエスカレーターで本館へと上っていきます。アーチ形の壁面や天井は美しい色彩で空間デザインされています。



**B 円形ホール**  
世界6か国から集めた大理石を床に敷いた直径20mのホールです。天井には、日本を代表する万華鏡作家の依田満・百合子夫妻による世界最大級の万華鏡が投影されています。万華鏡のためにピアニスト・中村由利子が作曲した音楽と共に楽しみください。



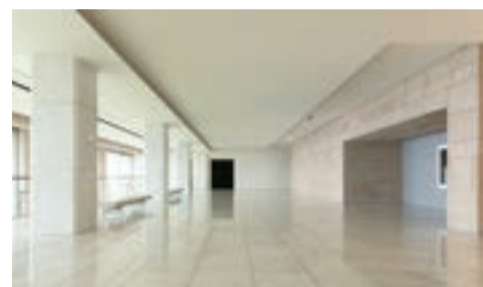
**E うるしエントランス**  
入口は、人間国宝の室瀬和美が手掛けた漆塗の大扉です。朱漆と黒漆のコントラストは現代美術作家・杉本博司のデザインで、桃山時代に流行した「片身替」をイメージしています。

**C ムアスクエア**  
20世紀彫刻の第一人者、ヘンリー・ムーアのブロンズ像「キング・アンド・クイーン」が展示されています。ここからは、相模灘の雄大な景観を眺めることができ、フォトスポットとしてもお楽しみいただけます。

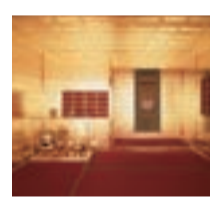


**D アポロンと瞑想 走りよる詩神たち**  
近代彫刻の父、アントワヌ・ブールデルによる高さ3m、全長約14mの巨大なレリーフです。1910年にパリのシャンゼリゼ劇場のために制作されました。本作品は、パリのブールデル美術館にある石膏像をもとに鑄造されました。

## Lobby 海を望むロビー [本館 2F]



**G メインロビー**  
初島や伊豆大島が浮かぶ相模灘を一望でき、遠くは房総半島から三浦半島、伊豆七島まで180度の大きなパノラマが楽しめます。床は大理石の一種・寒水石を敷き詰め、ソファは杉本博司のデザインで、脚部は透明度の高い光学ガラスを使用しています。壁面に杉本博司の代表作「海景 熱海」が展示されています。

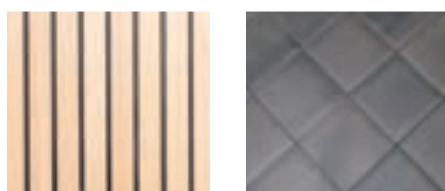


**F 黄金の茶室**  
豊臣秀吉ゆかりの黄金の茶室です。桃山時代の文献史料にもとづき、数奇屋建築の第一人者堀口捨己の監修のもと復元しました。茶室は組み立て式で、各部材のサイズや、組み合わせの仕組などは史料に基づいています。黄金の茶道具は、表千家不審庵に伝わる利休所持の真台子・唐金皆具等を参考に純金で復元しました。

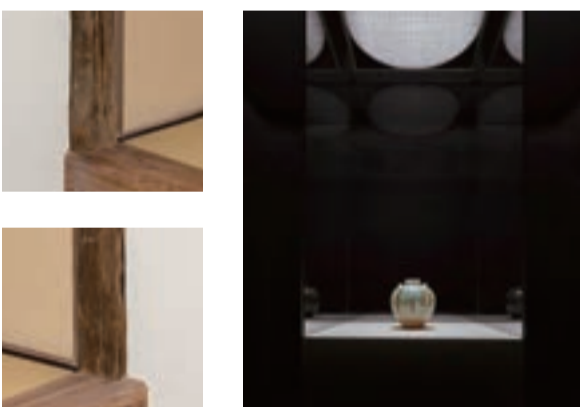
## Gallery 美術品がもっと美しく映える空間 [本館 1F・2F]



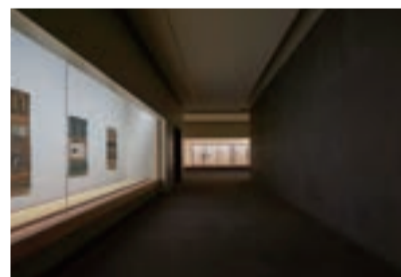
**H 展示室入口**  
ロビーから展示室に続く通路を露地に見立て、敷き瓦を四半敷で配置しています。杉本博司デザインの自動ドアは、木曽檜を用いた現代的な数寄屋の建築美を表しています。



**I ガラスの無い展示スペース**  
露出展示としてガラスのない大床を設けました。框(かまち)に空目の美しい樹齢1500年の屋久杉を、両脇の柱は奈良の海龍王寺・當麻寺の天平古材を用い、壁は聚楽土の土壁です。



**J 国宝 仁清作「色絵藤花文茶壺」特別展示室**  
仁清作 国宝「色絵藤花文茶壺」を展示するために設計された空間です。高さ3mの展示ケースを、江戸黒ともよばれる黒漆喰の壁で囲い、宇宙空間の中に作品が浮かぶ設計です。杉本博司の空間デザインと日本の古美術とのコラボレーションが楽しめます。



**K 階段ホール**  
2階から1階へと展示室を結ぶ階段ホールの窓は、杉本博司デザインの縦格子です。木曽檜の角材を45度回転することで、隙間から自然光が穏やかに差し込むよう設計されています。

**L 屋久杉の展示台**  
長さ9メートル、奥行き1.8メートルの展示ケースです。展示台は、推定樹齢1500年以上の屋久杉が使用されています。展示台に免震装置を埋め込み、展示の雰囲気や損傷を避けるように設計されています。

## Collection 日本美術の名品

MOA美術館のコレクションは、創立者・岡田茂吉(1882-1955)によって第二次世界大戦後から本格的に蒐集されたものです。現在、国宝3点、重要文化財67点、重要美術品46点を含む約3500点を所蔵しており、絵画、彫刻、陶磁器、漆工芸等多様な分野にわたります。特に、日本および中国をはじめとする東洋美術の作品は、美術的価値および研究対象としても貴重で、各分野の美術史を語る上で欠くことのできない作品が多い点は大きな特色です。また、どの分野をみても、鑑賞価値の高い、保存状態の良い作品を多く所蔵しています。



国宝 紅白梅図屏風 尾形光琳 江戸時代



国宝 色絵藤花文茶壺 野々村仁清 江戸時代



国宝 手鑑「翰墨城」 高野切 伝 紀貫之 平安時代



国宝 手鑑「翰墨城」 奈良~室町時代



重文 樵夫蒔絵硯箱 伝 本阿弥光悦 江戸時代



重文 洋人奏楽図屏風(部分) 桃山時代